

予報期間 9月15日から9月21日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 17日は、高気圧が北日本から千島近海に移動し、日本海に張り出す。前線が日本の東から本州南岸付近にのびる。
- 18日から19日は、高気圧が千島の東に移動し、気圧の谷が日本海に進む。熱帯低気圧が日本の南を西進する。
- 20日から21日は、気圧の谷が北日本から千島近海付近に進み、高気圧が朝鮮半島から日本海に移動する。熱帯低気圧が沖縄付近に進む。

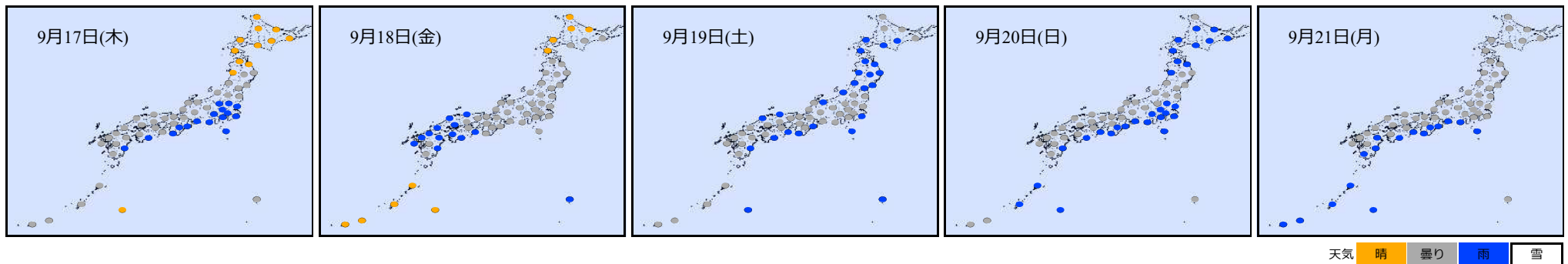
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 18日から19日頃は、小笠原諸島では熱帯低気圧の発達程度等によっては、大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

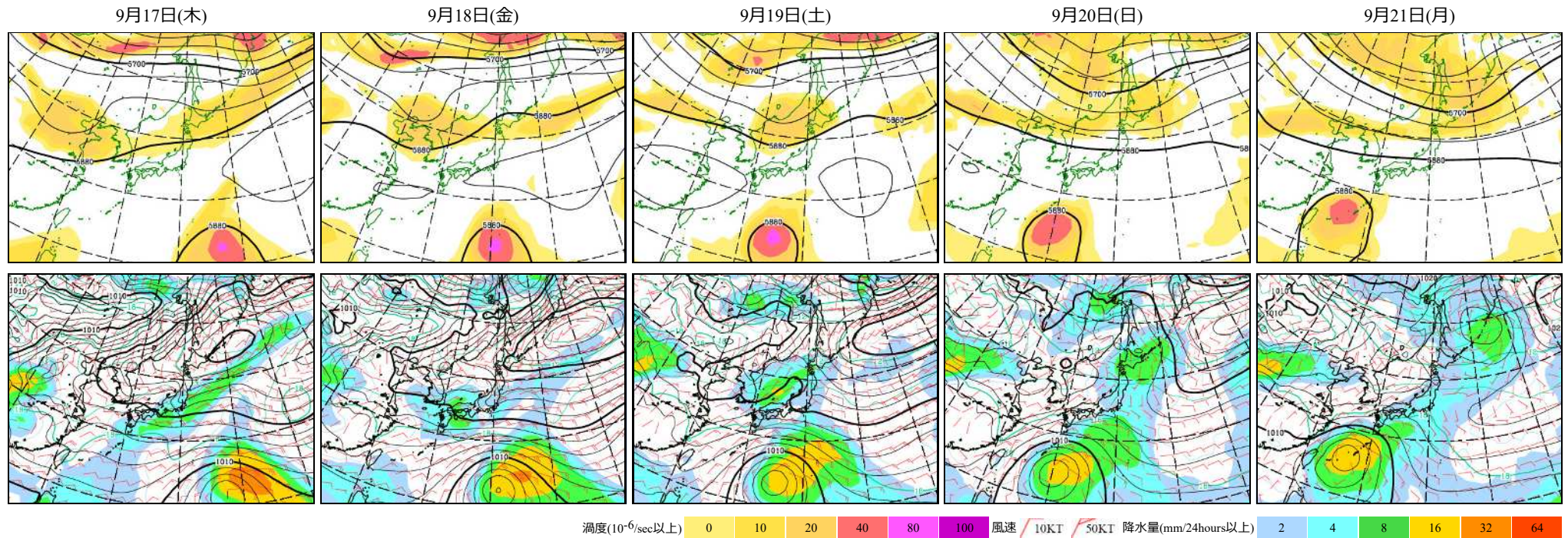
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

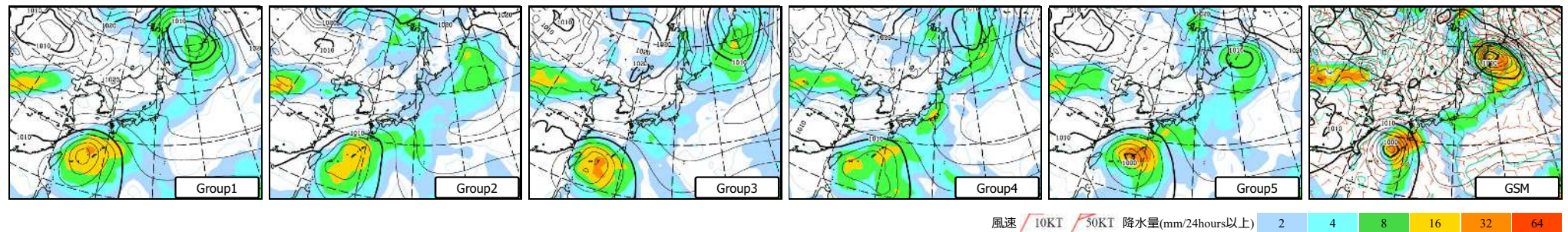


- 北日本と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、17日から18日は晴れる所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月21日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、19日に日本海に進むトラフがやや深くなった。21日は500hPa5700m付近のトラフが千島近海に進み、リッジが中国東北区付近に進む予想となり、地上も千島近海に進む低気圧が明瞭となった。
- 上空の流れの予想は、19日頃まで各モデルの予想は概ね一致しているが、20日から21日は500hPa5700m付近のトラフの動向に相違があり、地上の低気圧の予想もモデル間でばらつきが見られる。各モデル19日頃にかけて日本の南を熱帯じょう乱が西進する予想が見られるが、発達程度や20日以降の進路についてはモデル間で違いがあり、海外モデルでは発達した熱帯じょう乱が21日頃に西日本付近に北上する予想を示す。ENSには、海外モデルのように発達した熱帯じょう乱が西日本付近に進む予想を示すメンバーはほとんど存在せず、沖縄付近を西進するメンバーが比較的多い。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基本とするが、期間後半に日本付近に流れ込む熱帯じょう乱を回る暖湿気の影響については、海外モデルを参考に強めに考える。